

「こ」がメリット…その⑤

歯科医療の未来を切り拓く

今求められる「口から食べること」  
～高齢社会到来で高まる歯科の役割～

以前より歯や口腔の機能向上が全身の健康維持に貢献すると言われてきました。これからの高齢社会において、歯科医師が口腔内にとどまらず、医科や介護と連携して患者の生涯を支える役割を担っていくことが求められています。協会は、このような歯科にとって働きがいのある新たな活躍の場を拓いていきます。

医科歯科、病診連携

糖尿病と歯周病との深い関連性は今や常識となりつつあります。しかし同じ患者を診ている医師と歯科医師の連携はいまひとつ…。そのため「患者啓蒙ポスター」の普及を図ります。

また「睡眠時無呼吸症候群」の医科歯科連携、歯科開業医のバックアップである病院歯科との連携にも取り組まれます。



歯科界発展のために  
富山県歯科医師会と協力



左から中道県歯専務理事、吉田県歯会長、太田保険医協会副会長、小熊保険医協会相談役 (2009.4.9 県歯科医師会館)

多職種連携で  
歯科の新たなステージを

高齢者のQOL向上のため、胃ろう・経管栄養の見直しや経口摂取への動きが広がっています。しかし現実問題として誤嚥性肺炎のリスクが…。

そのため、口腔ケアや嚥下指導などに歯科が積極的に関わってほしいと、現場の多くの職種から求められています。



「口から食べる嚥下フォローアップ」(2010年開催)

歯科医療安全管理研修会

**歯科で行なう一次救命処置**  
～CPR用マネキン、AEDを使った実地訓練～

とき **4月26日(金)** 午後7時半

講師 今村歯科医院 院長 **今村 知代** 先生 ほか

5月開催

**「個別指導」歯科会員懇談会**

厚生局の開示資料や過去の相談事例から

訪問診療の推進

外来に来る患者もいつしか来院できなくなります。かかりつけ医として生涯にわたり患者を支えるには、診療室を離れ患者や施設に訪問することも必要。診療室の外へ一歩踏み出すお手伝いをしていきます。



昨年の歯科訪問診療研究会の「コマ」実際の診療風景のビデオ映像を見ながら、患者の状態や訪問先の環境にあわせた診療スタイルを学ぶことは、なかなか得難い経験です。

「こ」がメリット…その⑥

県医・県歯をはじめ  
県医療界の共同に尽力



済生会栗橋病院 副院長 本田 宏 氏  
県公的病院長 協議会 会長 泉 良平 氏  
富山県医師会 会長 福田 孜 氏  
富山大学医学部 医学部長 井上 博 氏  
富山県保険医協会 会長 矢野博明 氏

\*肩書き表示はすべて「当時」

さらに、今年四月には、五つの医師団体が主催で「民間病院を活かす道シンポジウム」が準備されています。他にも「富山県在宅医会」の立ち上げや、医療団体と介護団体との共同行動が盛んに行われるようになってきました。協会は今後、県医療界共同のため力を注ぎます。

民間病院を活かす道シンポジウム

地域の医療・介護連携の中での民間病院の立ち位置を明確にしよう  
～持てる病床とマンパワーを地域の中で活かすために～  
(詳しくは五面に)

「富山県在宅医会」が誕生

県内在宅医の親睦と在宅医療の向上をめざして

病院・大学・開業医が  
医療崩壊阻止で大同団結

二〇〇九年十二月に、県医師会、保険医協会、富山大学医学部、県公的病院長協議会、全日本病院協会県支部の五つの医師団体が共同で、大規模な講演会を開催した事をご記憶の先生も多いのではないのでしょうか。医療崩壊を止めようという医師自身が大きな声を上げたもので、全国的にも画期的な出来事でした。

また、二〇一一年三月十一日の東日本大震災に際し、県医師会は福島県にJMATを次々と派遣しました。協会も県医師会の要請に応え、人的支援を行いました。

JMATで県医師会と協力

医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士・薬剤師がチームを組んで



岩城県医師会会長 (左から5人目)、矢野会長 (同4人目)、三谷県看護協会会長 (右端) が出発前に揃って激励

